

やりたいこと どんどん伸びる!

金城美奈子 (高2 岡山市立東山中学校出身 テニス部)

入学して1年余りが過ぎましたが、今、私は操山高生であることを誇りに思っています。

操山高校で経験したことは松柏祭や球技大会、スキー合宿など、みんなで協力し合い、その行事がとても熱く盛り上がることです。その中でクラスの絆も深まり、他のクラスの友達もたくさんできました。いろいろな考えや意見を交換し、得たものもたくさんあります。学校に行くことがとても楽しくなりました。

部活動では、やさしい先輩たちや気の合う同級生、かわいい後輩たちとともに、切磋琢磨しながらお互いにテニスの上達を目指して頑張っています。

学習面では、授業の内容で理解しにくいことがあれば、後で先生に質問に行くように心がけています。先生方はとても丁寧に教えてくださるので安心です。時には、温かい激励の言葉をいただき、ますますやる気が湧いてきます。

入学時に決意した「文武両道」を実践するために日々努力しています。「諸先生方のご指導により生徒たちみんながそれぞれの夢や目標に向かって突き進む」このような環境が整っている操山高校で、みなさんも充実した3年間を過ごしてみませんか。



中山 勝博 (高2 岡山市立中央中学校出身 バスケットボール部)

操山は授業が大変だろうなと思っていませんか。昔は僕も思っていました。しかし、僕が操山高校に行きたいと思うようになったのは、「標準」「速修」といった授業の進むスピードが異なる科目選択ができるからです。僕自身苦手な科目があります。その苦手な科目は時間をかけて理解しながら授業が受けることができ、逆に得意な科目は早く進んでいけると聞いたからです。実際、入学してみると、自分に合ったペースで授業に取り組むことができます。しかし、授業だけでは力がつきません。そこで、大切なのが「予習・授業・復習」のサイクルです。そのサイクルを早く身に付けることで、学力もしっかりついていきます。そうしたアドバイスも面談等でしっかりしてくださり、僕自身、より有意義な高校生活を送っています。

もちろん勉強だけでなく、多くの生徒が部に入り、一生懸命活動しています。限られた時間を活用して、多くの輝かしい成績を残しています。僕自身、部活動と勉強の両立を図るため、リズムを作ることは最初は大変でしたが、今は「操山高校の生徒として頑張ることができる」ことが楽しく、誇りに思っています。是非、みなさんも「操山ファミリー」の一員になりませんか。



高校の授業は難しいですか?

操山高校の授業は、他の高校と比べてもスピードはかなり速めです。ですから、毎日の勉強のサイクルを確立させることが必要となってきます。しかし、逆に言えば、忙しい生活の中で、要領よく勉強する技能を身に付けるようになりますし、慣れれば、生徒たちは皆、自分なりに工夫して勉強できるようになります。

また、操山高校は自由な校風の学校ですが、だからこそ、生徒たちは受身ではなく、自主的に学習する姿勢を身に付けるようになります。自分なりに勉強していく上で、もちろん困難もあるでしょうが、試行錯誤を繰り返して初めて自分にあった勉強法を見つけ出すことができると思います。ただ押し付けられたものを覚える、というのではなく密度の濃い授業の中で、本当に大切なことを気付かせてくれる。それが、操山高校の授業です。 (吹奏楽部)



校則は厳しいですか?

校則を「守られるもの」と受身で考えている人はいませんか?

家族の一員、学校の一員、社会の一員…。私たちは常に誰かと共に生きています。自分にとってだけでなく、仲間にとっても楽しい操山にしたいと考えた時、私は一つ一つの校則をその理由も含めて理解できました。操山は、自分も仲間も大切にしたいと思える学校です。だから、校則も主体的に受けとめることができるのです。 (野球部)

